



日常生活能力，生活の質と 認知機能，環境の相互関連

保健福祉学部 作業療法学科
教授 久野 真矢（ひさの しんや）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4528 号室
Tel : 0848-60-1239
E-mail : hisano@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 作業療法学

キーワード： 認知機能，高齢者，認知症，統合失調症，
高次脳機能障害，ADL，IADL，QOL，住環境

● 現在の研究について

超高齢社会となった現在，フレイル・認知症予防や認知症を持つ方への適切なリハビリテーション，ケアが求められています．認知症を持つ方の生活の質（QOL）には，日常生活の中で積極的に活動や人と関わり，良い感情状態を保つことが重要といわれています．また，家具やインテリアといった住まいの環境設定も生活の質に影響するといわれています．

こういった状況から，高齢者や認知症を持つ方を対象として，生活の質向上につながる住まいの環境設定方法について研究を行ってきました．適切なテーブルや椅子の高さを決定する方法，家具の配置の仕方や仕切りの使い方，畳の設置の仕方といった簡単な住環境の設定方法の実証や認知症を持つ方の他者との交流に関する評価指標の開発などを行ってきました．

また，高齢者や認知症を持つ方の認知機能と日常生活能力（ADL/IADL）の関連について研究を行い，高齢者や認知症を持つ方の日常生活能力は認知機能低下に伴いこどもの発達の逆の過程で低下すること，また，認知機能検査結果から現実的に実行可能な日常生活能力が予測できる回帰式を明らかにしました．

認知症を持つ方は認知機能の低下に伴い，日常生活能力が低下しケアが必要となります．認知機能の維持・改善には日常生活介助やアクティビティを適切な方法で提供することが重要となります．そこで研究結果を応用して，認知機能検査結

果から認知機能レベルに対応した日常生活能力を実行できているか判断することや，どの程度の能力を獲得することができるのか予測することもできる簡単な日常生活能力評価尺度を開発しました．さらに，認知機能レベル別のアクティビティやグループワークの適切な提供の仕方について指標を構築しました．

● 今後進めていきたい研究について

これまでの研究から開発した認知機能レベルとの対応を関連付けることが可能な日常生活能力評価尺度やアクティビティやグループワークの認知機能レベルに対応した方法論について臨床的有用性を示すための研究を進めていく計画にしています．

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域の方々が健康や幸福を維持・増進し，フレイルや認知症を予防することは非常に重要と思います．作業療法的観点から捉えたフレイル・認知症予防の取り組みを地域・企業等と連携して進めていきたいと考えています．

また，認知症を持つ方に適切なアクティビティケアを提供し，生活の質向上につながるように，認知機能レベルと対応したアクティビティケアモデルに基づいた機器・道具を共同開発したいと考えています．

● これまでの連携実績

作業療法的観点から認知症予防やリハビリテーション，ケアについて公開講座や講演を行ってきました（ふれあい健康事業推進協議会，大牟田市天領校区まちづくり協議会，島根県作業療法士会，九州栄養福祉大学，帝京大学等）．

このような情報発信は今後も継続したいと考えています．